

一般演題10-6

当院における近年の高気圧酸素治療の移り変わり

久我洋史¹⁾ 長見英治¹⁾ 小倉 健¹⁾
 堀川俊之介¹⁾ 岡崎 徹¹⁾ 青野賢大¹⁾
 橋本光宏²⁾ 守屋拓朗²⁾ 牧之内 崇³⁾
 山内雅人³⁾

- 1) 独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院 臨床工学部
- 2) 独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院 整形外科
- 3) 独立行政法人 労働者健康安全機構 千葉労災病院 循環器内科

【はじめに】

千葉労災病院（以下、当院）は病床数400床、21診療科の総合病院であり、高気圧酸素治療（以下、HBO）は昭和40年11月から開始。装置は第1種装置2台所有（中村鐵工所製：NHC-230）し、平成23年10月に空気加圧も使用可能となり、その後は空気加圧にて治療を実施¹⁾。平成25年10月には病院の新棟移設と同時にモニタリング（小池メディカル社製：BARAMO）を設置²⁾、平成24年には安全協会の会員、平成25年には当学会の認定施設も取得し、より安全な治療を目指している。

当院のHBOは主に臨床工学部を中心に運用し、操作を担当する臨床工学技士は6名（専門技師：3名）で治療は主に平日の日勤帯に実施している。その他は24時間オンコールにて対応しており、専門医は1名（循環器内科医）である。

【目的】

平成24年度から平成28年度のHBOの実績を調査し、当院の特徴や現状の把握、今後の課題を検討する。

【結果】

実施件数（図1）は24年度が1000件を超えていたが、その後は800件程で推移していた。依頼は11診療科からあり、そ

の半数は耳鼻咽喉科だが、近年件数の減少傾向があった。しかし歯科口腔外科と形成外科の件数は増加傾向が見られた。当院の主な疾患は突発性難聴や脊髄神経疾患、骨髄炎、腸閉塞などであった（表1）。また、救急の件数は毎年10%程であり、入院での件数は500件程で推移していたが、外来の件数は500件から200件程に減少していることがわかった。

【まとめ】

当院のHBOは近年では件数の推移はあまりないが、診療科での割合には変化があり、HBOに対して見直されている疾患もあることがわかった。

救急の件数は毎年10%ほどと少なく、外来の件数も減少傾向であり、どちらも改善を図れるよう今後の検討課題として、病院全体の体制も含めて見直す必要がある。

【結語】

当院のHBOの件数は近年あまり変化していなかった。しかし、対象となる疾患が年々変化しているため、装置の操作を担当する臨床工学技士はそれぞれの違いに留意して安全に治療する必要がある。

また、今後の課題として救急や外来の件数の増加のために院内外の普及活動や院内の体制の見直しをすることで今後もHBOの発展に貢献したいと考える。

参考文献

- 1) 長見英治, 他. : 千葉労災病院における高気圧酸素治療の現状. 日本高気圧環境・潜水医学会雑誌 2011;Vol.46,No.4 : 262.
- 2) 久我洋史, 他. : 当院におけるBARAMOを用いた高気圧酸素治療による生体情報変化の検討. 日本高気圧環境・潜水医学会雑誌 2015;Vol.50,No.4 : 279.

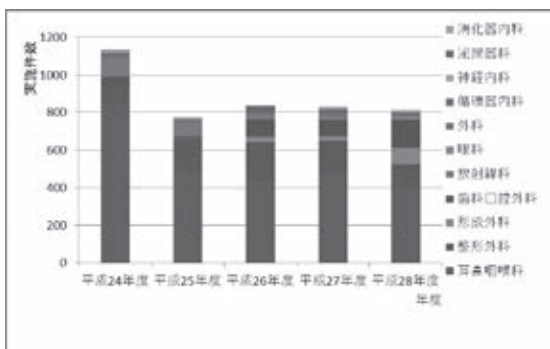


図1 年度別 HBO 実施件数

表1 診療科別対象疾患

診療科	対象疾患
耳鼻咽喉科	突発性難聴
整形外科	脊髄神経疾患、化膿性脊椎炎、ガス壊疽、抹消循環障害、スポーツ外傷
歯科口腔外科	骨髄炎、骨髄壊死
形成外科	骨髄炎、抹消血管循環障害、難治性潰瘍、ガス壊疽
外科	腸閉塞、一酸化炭素中毒
泌尿器科	腸閉塞、抹消血管障害
消化器内科	腸閉塞、腸管気腫
循環器内科	難治性潰瘍、網膜中心動脈閉塞症、抹消循環障害
眼科	網膜動脈閉塞症
放射線科	放射線性潰瘍
神経内科	一酸化炭素中毒